



電動車いす 取扱説明書

EMC-760／EMC-770



この取扱説明書はご使用前にご本人及び介助者が必ずよくお読みください。また、いつも身近において分からないことがありましたら取扱説明書をお読みください。

はじめに

●ごあいさつ●

この度はイマセン電動車いすをお買い上げいただきましてありがとうございます。
取扱説明書には、正しい取り扱いや簡単な手入れの方法について記載してありますので、ご使用前にご本人及び介助者が**必ずよくお読みください**。また、電動車いすのポケットなどに保管して、分からないことがありましたら取扱説明書をお読みください。

電動車いすを安全にご使用いただき、皆様の日常生活のお役に立てることを願っております。

●お願い●

品質改良のためお手元の製品と取扱説明書の内容・イラストの一部が異なる場合がありますのでご了承ください。

電動車いすを他人に貸す場合は、取り扱い方法をよく説明し、ご使用前に「取扱説明書」を**必ず読むように指導**してください。

電動車いすを譲渡するときは、「取扱説明書」を一緒に引き渡してください。

公道で使用する場合、道路交通法で定められた電動車いすの定義より外れるものについては、最寄りの警察署長の承認をお取りください。

●補修用部品の供給年限について●

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は製品打ち切り後7年と致します。ただし、供給年限内であっても部品によっては供給できない場合があります。また、納期・価格等についてご相談させていただく場合もあります。





目次

項 目 ・ 内 容		頁数
1	安全のために	3
2	各部の名称	4
3	基本的注意事項	5
	1. コーショラベルの説明	5
	2. 運転の練習	7
	3. 走行上の注意	7
	4. 充電上の注意	10
	5. バッテリについて	11
4	組み立て・調整及び分解	12
	1. ヘッドサポートの取り付け	12
	2. アームサポートの後方スイングと着脱の仕方	12
	3. アームサポートの高さ調整	13
	4. フットサポートの高さ調整	14
	5. 操作ボックスの取り付け及び位置調整	14
	6. バッテリのセットの仕方	15
	7. 分解	15
5	点検・整備・保証	16
	1. 日常点検	16
	2. 定期点検	16
	3. 保証について	18
6	運転及び操作の仕方	19
	1. 運転時の操作手順について	19
	2. 電動リクライニングの操作について	20
	3. 操作レバーの適応について（オプション）	22
	4. バッテリ残量ランプの表示について	22
	5. 電源スイッチ切り忘れ防止機能について	23
	6. 走行距離について	23
	7. 緊急時の対処の方法について	24
7	充電の仕方	25
8	バッテリーの取り扱い	28
	1. バッテリについて	28
	2. バッテリの交換について	29
	3. バッテリを長持ちさせる上手な使い方	30
9	手入れの仕方	31
	1. タイヤの空気圧について	31
	2. 保管上の注意	31
	3. その他の手入れ	32
10	故障時チェックリスト	33
11	諸元・性能表	35
12	電気配線図	36
13	外観図	37

1 安全のために

電動車いすを安全にご使用いただくためには、正しい操作と定期的な点検が必要です。取扱説明書に示されている安全に関する注意事項をよくお読みになり、十分に理解されるまでにご使用にならないでください。

電動車いすは、歩行が不自由な方、お年寄りの方が乗って移動することを使用目的につくられています。取扱説明書に示されている操作方法や安全に関する注意事項は、電動車いすを指定の使用目的に使用する場合のみに関するものです。取扱説明書に書かれていない使用方法をおこなう場合の責任は負いかねますのでご注意ください。

この取扱説明書には、ご使用に際して特に重要な案内事項を  危険  警告  注意  のマークを使用して表現してあります。これらのマークにより表現された内容は、以下の意味を持ちますので特に注意してください。



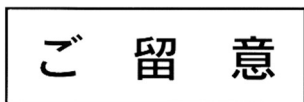
その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。



その指示に従わなかった場合、死亡または重傷を負う恐れのあるものを示します。

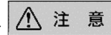


その指示に従わなかった場合、軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する恐れのあるものを示します。

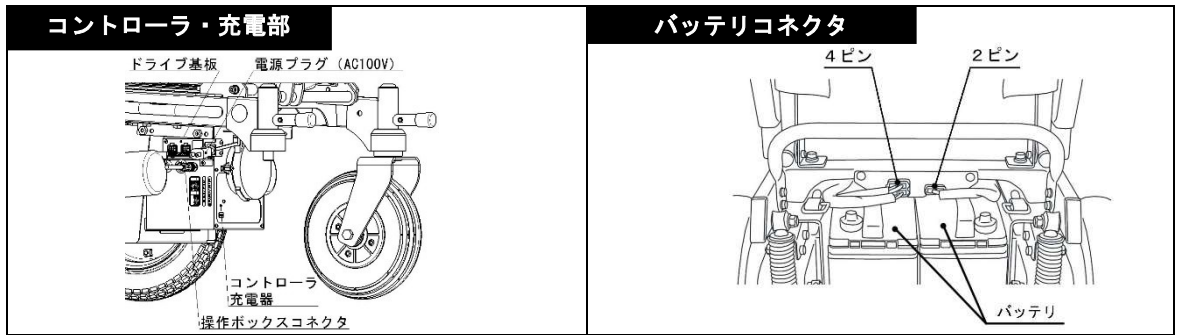


その指示に従わなかった場合、電動車いすが壊れる恐れがあるものを示します。

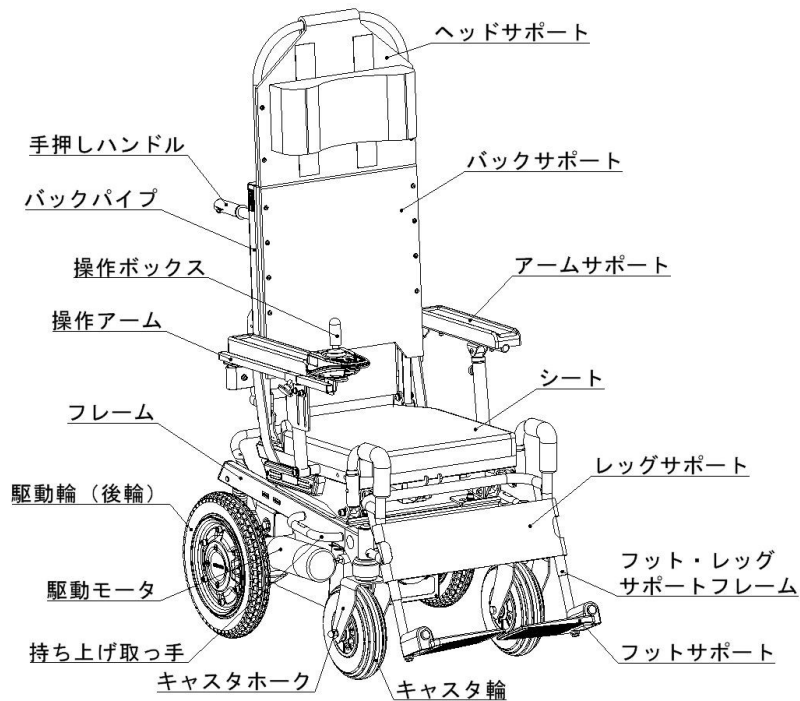
尚、上記分類においては

- 重 傷：失明・けが・火傷（高温・低温）・感電・骨折・中毒などで後遺症が残るもの及び治療に入院・長期の通院を要するもの。
- 軽 傷：治療に入院や長期の通院を要さないもの。（上記重傷以外）
- 物的損害：家屋や家財及び家畜・ペットにかかわる損害など。ただし、電動車いす自体のみの損害（自損）は含まれない。また、 の欄に記載した事項でも状況によっては重大な結果に結びつく場合があります。いずれの場合も安全に関する重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

2 各部の名称



●電動車いす全体



●操作ボックス

TOOLボタン

- ・長押しでバッテリー残量表示
- ・ライト (オプション) の ON/OFFなど

操作レバー

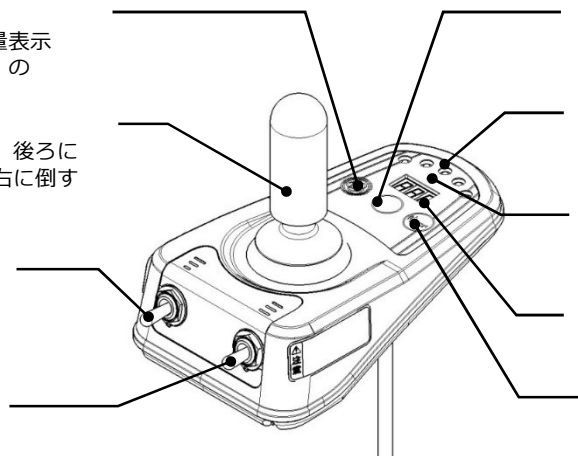
- ・前に倒すと「前進」、後ろに倒すと「後進」、左右に倒すとその方向に旋回

速度切替スイッチ

- ・低速/中速/高速の3段階で速度切替

電源スイッチ

- ・上: 電源「走行」
- ・中: 電源「座席」
- ・下: 電源「切」



走行モード切替ボタン

- ・長押しで走行モード切替表示後短押しにて走行モード切替

バッテリー残量ランプ

- ・5個のLEDで現在の残量を表示
- ・詳細はP.22

照度センサ

- ・周囲の明るさを検出し、LEDの明るさを自動切替

表示器

- ・速度表示、エラー表示等の情報を表示

ホーンボタン

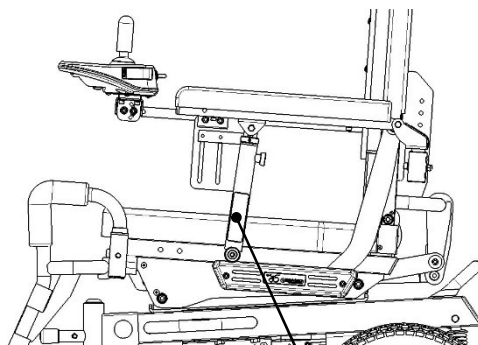
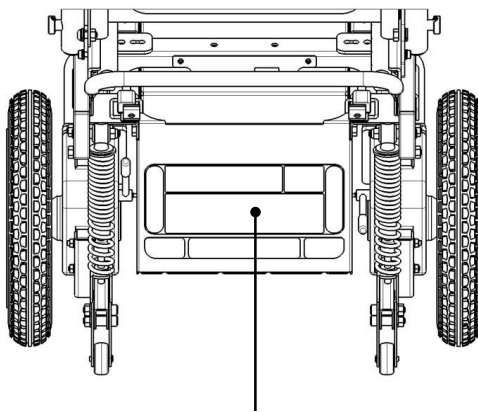
- ・押しとホーンが鳴る

3 基本的注意事項

1. コーションラベルの説明

運転上、特に注意して頂くことを電動車いすにラベル表示してあります。よくお読みになって安全に走行してください。

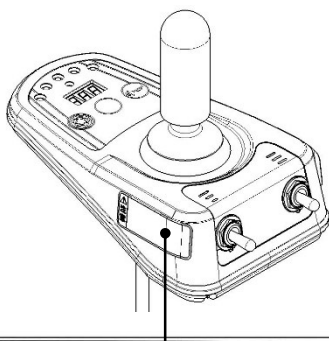
■コーションラベル位置■



電動 ↑ ↓ 手動	警告 衝突・転倒の恐れがあります。坂道ではクラッチレバーを「手動」位置で使用しないでください。 感電の恐れがあります。濡れたプラグや濡れた手で充電しないでください。 引火爆発の恐れがあります。充電中(バッテリー)に火気を近づけないでください。	タイヤ空気圧 <table border="1"> <tr> <td>前輪</td> <td>230 ~ 250kpa (2.3 ~ 2.5kgf/cm²)</td> </tr> <tr> <td>後輪</td> <td>200 ~ 220kpa (2.0 ~ 2.2kgf/cm²)</td> </tr> </table>	前輪	230 ~ 250kpa (2.3 ~ 2.5kgf/cm ²)	後輪	200 ~ 220kpa (2.0 ~ 2.2kgf/cm ²)	電動 ↑ ↓ 手動
	前輪	230 ~ 250kpa (2.3 ~ 2.5kgf/cm ²)					
後輪	200 ~ 220kpa (2.0 ~ 2.2kgf/cm ²)						
注意 ○取扱説明書をよく読んでから使用してください。 ○電動車いすは、歩行者扱いとなりますので交通ルールを守って走行してください。 ○服装が車輪へ巻き込まれないよう注意して走行してください。 ○気分がすくれない時や、飲酒した時は運転をしないでください。 ○次のような状況下での運転は、衝突、転倒の恐れがありますので、回避するか介助者に同行してもらってください。 ・急な坂道 ・急旋回、蛇行運転 ・下り坂の後進 ・傾斜面の横断 ・大きな段差 ・幅の広い溝 ・下り坂での中高速走行 ・ぬかるみ、雪道、凍結路等の悪路 ・雨天、濃霧、強風等の悪天候時 ・重積載（搭乗者含む）走行 ・危険な場所（プラットホーム・踏み切りなど）							

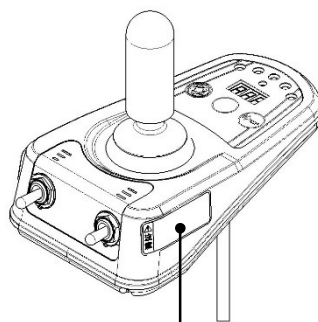
注意

ロックピンが確実にロックされていることを確認してから走行してください。



注意

無線・携帯電話等を使用するとき、あるいは、理学療法の治療を受けるときは、電動車いすの電源スイッチを「切」にしてください。機器の故障や誤動作の恐れがありますので、水のかかるところや、濡れた手で使用したり、操作レバーを改造したりしないでください。



注意

レバーのバネ力や操作ボックスの取付角度を調整する際は、取扱説明書をご覧ください。

基本的注意事項

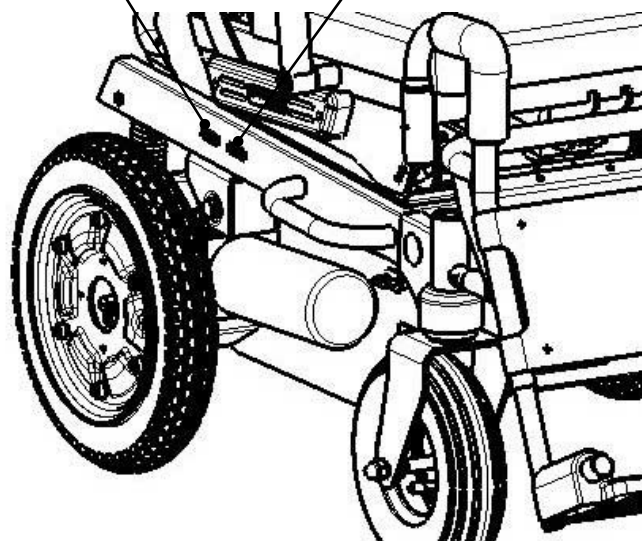
■コーションラベルの内容■

製造年月ラベル

〇〇年〇〇月製

車体番号ラベル

〇〇〇〇〇〇〇〇



基本的注意事項

2. 運転の練習

正しい操作手順を覚えるために、次のような練習をしてください。

- 必ず介助者を同行して公園や広場等の安全な場所で自信がつくまで充分練習してください。
- 停止するときは操作レバーを中央の位置に戻してください。
- 最初は速度切り替えスイッチを低速にして、まっすぐに走行したり大きく回ったりして練習してください。
- 慣れてきたら低速から速度を切り替えて練習してください。
- はじめて屋外へ出るときは必ず介助者を同行して安全を確認しながら走行してください。

3. 走行上の注意

(1) 坂道走行するときは次のことを守ってください。



8度まで

	警告 衝突・転倒の恐れがあります。 坂道ではクラッチレバーを「手動」位置で使用しないでください。 制止できなくて人身事故の危険があります。
---	---

注意	坂道での移乗は危険ですからやめてください。必ず平坦な場所で移譲してください。
-----------	--

注意	急な坂道の走行や坂の途中で向きを変更すること、急な傾斜面（5度以上）を横切るとは不安定になりやすく危険ですので避けてください。尚、安全に上り下りできる坂道は8度までです。
-----------	---

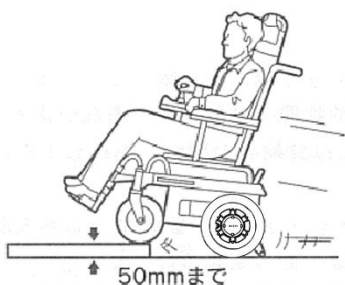


低速

注意	下り坂を走行するときは、必ず低速にしてゆっくりした速度で下ってください。高速では停止距離が長くなり危険ですので避けてください。 後ろ向きに下ることは大変危険ですのでしないでください。
-----------	--

基本的注意事項

(2) 段差の乗り越え、溝越えについては次のことを守ってください。



⚠ 注意

越えることができる段差は50mmまでです。これ以上の高い段差は危険です。路面状態のよいところを走行してください。



⚠ 注意

30mm以上の溝越えをする場合は介助者を同行して走行してください。

⚠ 注意

転倒、落輪する恐れがあります。段差、溝に対して斜め方向から進入することはやめて、直角に乗り越えてください。

(3) 悪天候、夜間走行は次のことを守ってください。



介助者と同行

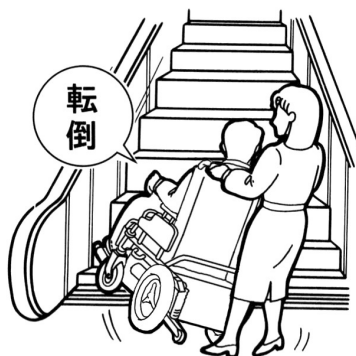


⚠ 注意

電子機器に雨水が掛かる雨天時や水が掛かるところでの使用は、機器の故障や誤動作の恐れがありますので避けてください。

雨天、濃霧、強風時等は見通しが悪くなり、危険をとまないので電動車いすの使用は避けてください。雪道、凍結路はスリップする恐れがありますので避けてください。夜間の走行は大変危険ですので避けてください。やむをえず走行する場合は介助者を同行して走行してください。

(4) その他、次のことを守ってください。



⚠ 注意

使用前には点検をおこなってください。

⚠ 注意

エスカレーター（車いす乗車用は除く）の使用や階段への進入は転倒しますのでやめてください。

基本的注意事項



交通量の多い道路



踏切



砂利道



でこぼこ道



ぬかるみ



⚠ 注意

電動車いすの走行できる場所には限度があります。次のような場所や状態では危険をとまないので避けるか、必ず介助者を同行して走行してください。

- デパート、商店、レストラン、駅のホーム等人混みで走行する場合は充分気を付けてください。
- 交通量の多い道路、踏切、砂利道、でこぼこ道、エスカレーター、ぬかるみ、防護柵の無い道路の路肩等は衝突や転倒またはタイヤがめり込んだり、バッテリーケースがつかえたりして動けなくなることがあります。

⚠ 注意

走行中の急旋回、蛇行運転、急停止は衝突や転倒の恐れがあります。なめらかな運転をしてください。

⚠ 注意

衣服等がタイヤへ巻き込まれないよう気を付けて走行してください。

⚠ 注意

操作ボックスの操作レバーに物を掛けますと運転のさまたげになります。大変危険ですのでしないでください。

⚠ 注意

走行中に異常を感じたら直ちに使用を中止して販売店へご連絡ください。

⚠ 注意

飲酒、過労時等の状態で使用しないでください。

⚠ 注意

段差解消機及び、スロープ付き自動車またはリフト付き自動車を利用される際は、一人で乗降されますと大変危険です。一人で乗降しないでください。乗降のときは、必ず介助の方が電動車いすのクラッチを手動に切り替え、安全を確認しながら手押しにておこなってください。リフト昇降時、固定時は必ず電動車いすのクラッチを電動に切り替え、電源スイッチを「切」にしてください。

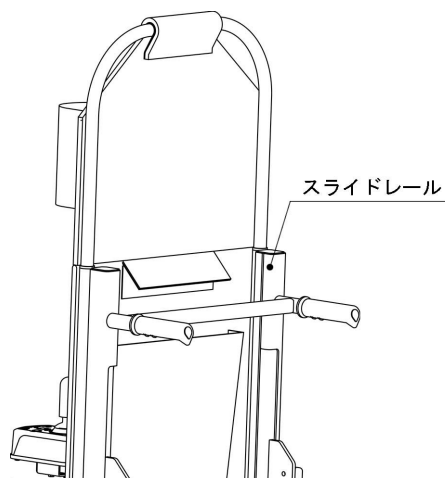
基本的注意事項

⚠ 注意

スライドレール部には加工を加えないでください。
破損、故障につながります。

⚠ 注意

改造しないでください。
改造すると安全上問題となることがあります。
改造する場合は事前に販売店にご相談ください。
許可のない改造には責任を負いかねます。



⚠ 注意

電動車いすを持ち上げる場合は、操作制御ボックスの電源スイッチを「切」にして、両側と後方のパイプ（ラベル：吊上箇所）を持っておこなってください。フット・レッグサポートフレームなど他の部分を持たないでください。

⚠ 注意


走行中に異常を感じたら、直ちに使用を中止し、販売店へご連絡ください。


4. 充電上の注意

⚠ 注意

バッテリーの充電中は可燃性のガスを発生しますので、次のような場所では充電しないでください。

- 直射日光のあたる場所
- 風通しの悪い場所
- 近くに調理器具や暖房器具などの火気器具を使用する場所

	⚠ 警告 引火爆発の恐れがあります 充電中、バッテリーに火気を近づけないでください。 バッテリーは充電中、可燃性のガスを発生します。
---	--

	⚠ 警告 感電の恐れがあります 濡れたプラグや、濡れた手で充電しないでください。 つぎのような場所では充電しないでください。 ● 雨露を受ける場所 ● 湿気の多い場所
---	---

基本的注意事項

5. バッテリーについて

バッテリーに直接触れる作業をおこなう場合は、バッテリーに表示されているコーションラベルをよくお読みになってその指示に従ってください。バッテリーのラベルの内容は次の通りです。

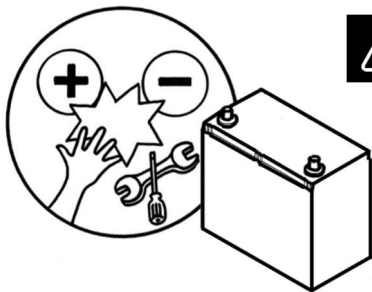
⚠ 危険

- ・ 取り扱いを誤ると引火爆発の恐れがあります。
- ・ 水素ガスが出ることがあるため、密閉容器内で使用しないでください。充電は風通しの良いところでおこないショートや断線でスパークさせたり火気を近づけたりしないでください。
- ・ 排気栓は絶対に取り外さないでください。（補水禁止）
- ・ 充電は専用充電器を使用するか、または指定の充電条件でおこなってください。
- ・ バッテリー液（希硫酸）で失明、やけどをすることがあります。目、皮膚、衣類物に付いたときには直ちに多量の水で洗い、目に入ったときは直ちに多量の清水で洗眼した後、すぐに医師の治療を受けてください。

⚠ 警告

- ・ 分解、改造しないでください
この電池には希硫酸が入っています
目、皮膚、衣服に付くと失明ややけどの原因となります

バッテリーについては次のことを守ってください。



⚠ 危険

バッテリーのプラス端子とマイナス端子を接触させると、火傷やバッテリーを損傷する恐れがあります。バッテリーの交換、メンテナンス時に工具または金属物を接触させないように作業してください。作業終了後、ターミナルカバーが確実にかぶっていることを確認してください。

⚠ 注意

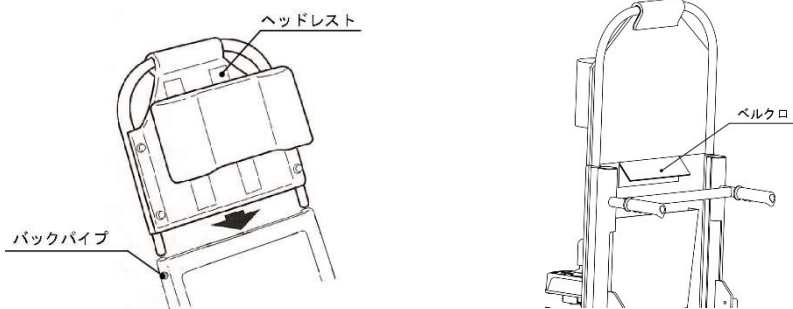
電動車いすのバッテリーを人工呼吸装置等の生命維持装置の電源等には使用しないでください。

4 組み立て・調整及び分解

梱包を解いたときや分解した電動車いすは、次の順序により組み立てと調整をしてください。

1. ヘッドサポートの取り付け

ヘッドサポートは電動車いすのバックパイプの穴に差し込み、バックサポート後方の面ファスナーにしっかりと貼り合わせてください。



※ヘッドサポートを装着した状態で公道を走行するときは、住所地为管轄する警察署長の確認が必要です。必ず「確認申請書」を最寄りの警察署に届出し、警察署長の確認を得てください。

2. アームサポートの後方スイングと着脱の仕方

アームサポートのロック解除は、ロックノブを手前に引きながら回すことにより外れます。ロックが外れたことを確認して、アームサポートを後方に引き上げてください。

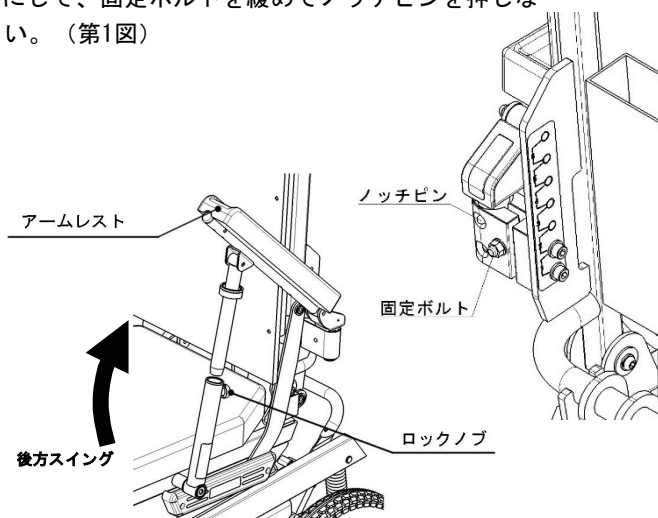
アームサポートの着脱は後方スイングの状態にして、固定ボルトを緩めてノッチピンを押しながらアームサポートを上方に引き抜いてください。（第1図）

注意

アームサポート装着後は、前方のロックと後方の固定ボルトの締め付けが確実にされていることを確認してください。

注意

ノッチピンが確実にロックされていることを確認してから走行してください。



(第1図)

組み立て・調整及び分解

3. アームサポートの高さ調整

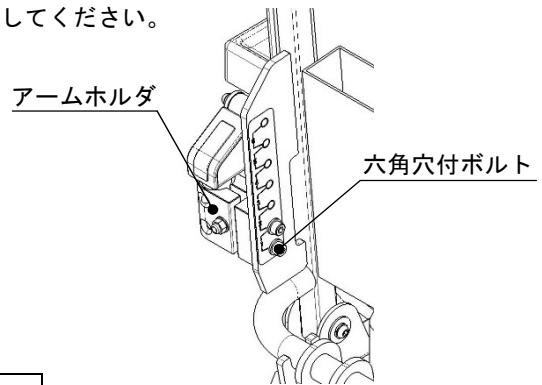
アームサポートの高さ調整は、バックサポートの後部にある2カ所の六角穴付ボルトを緩めアームホルダの位置を調整します。(第2図) 前方のセフティーロックを手前に引きながら回すとロックが解除されアームサポートが抜けますので後部の高さに合わせるように前部の高さを決定します。例えば、後部のアームホルダの位置を一番下(①②で固定)に固定した場合は、前部の6カ所の穴位置は一番上の穴⑥を使用して固定するようにしてください。

それぞれの高さ調整を対応表に示します。(第3図) ストッパーリングの固定を緩め、6カ所の高さ調整用穴を利用して、任意の位置に調整することができます。(第4図)

高さ調整は20mmピッチで6段階に調整可能です。

(上限～下限調整範囲：100mm)

高さ調整後、ストッパーリングをアームパイプ上部の面に合わせ固定してください。

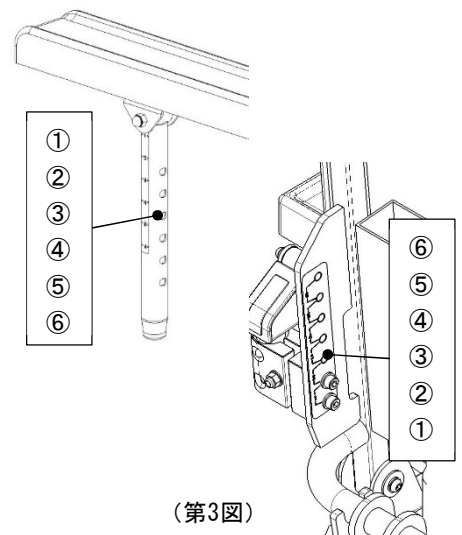


(第2図)

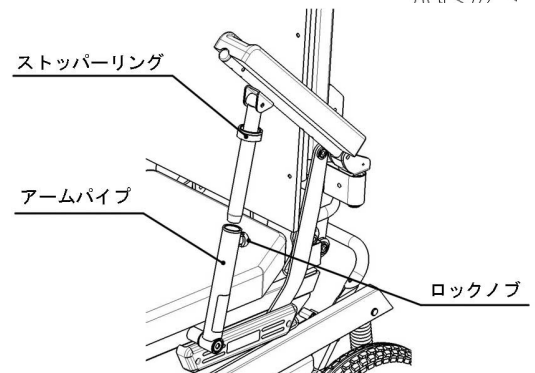
⚠ 注意

アームサポートが破損する恐れがあります。高さ調整に関しては、必ず対応表にある位置関係にて固定をしてください。

アームの高さ(mm)	前部の固定	後部の固定
210	①	①
230	②	②
250	③	③
270	④	④
290	⑤	⑤
310	⑥	⑥



(第3図)

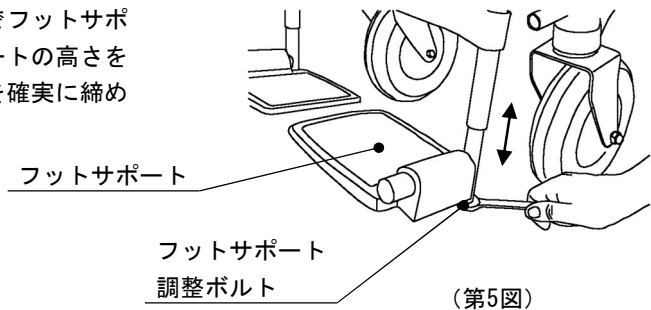


(第4図)

組み立て・調整及び分解

4. フットサポートの高さ調整

フットサポートの高さは、スパナでフットサポート調整ボルトを緩め、フットサポートの高さを調整し、フットサポート調整ボルトを確実に締め付けてください。(第5図)



ご 留 意

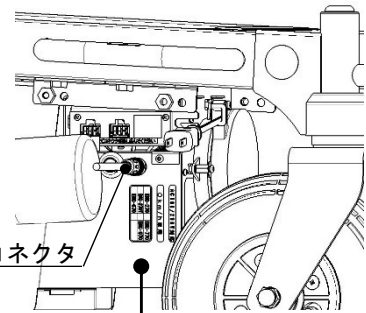
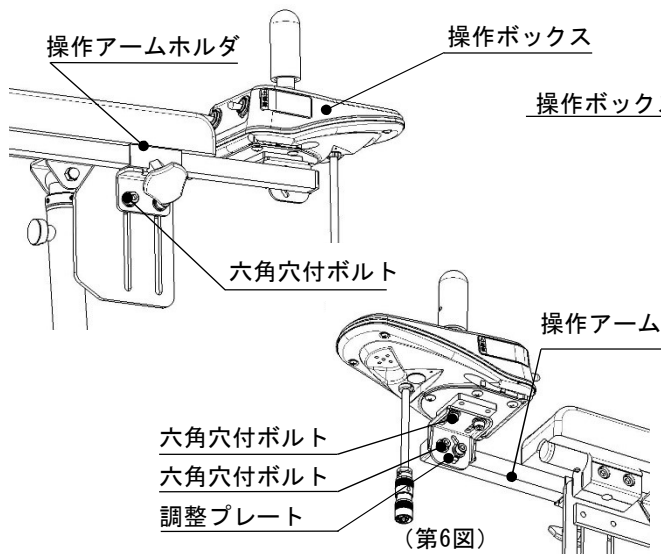
路面の突起物に当たる恐れがあるので、フットサポートの高さは路面より100mm以下にしないでください。

5. 操作ボックスの取り付け及び位置調整

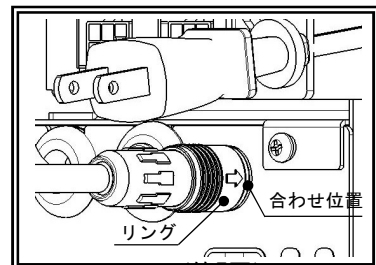
操作ボックスと操作アームを調整プレートで固定し六角レンチを使用して六角穴付ボルトを締め付けてください。

操作ボックスの位置は操作アームホルダの固定ボルト、六角穴付ボルトの4カ所で操作に適した位置に調整してください。(第6図)

操作ボックスのコネクタはシート右下のコネクタへ向きを合わせ差し込みます。このとき、操作ボックスの電源スイッチは「切」にしてください。尚、コネクタを抜くときはコネクタのリングを引きながら抜いてください。(第7図)



操作ボックスコネクタ拡大図



組み立て・調整及び分解

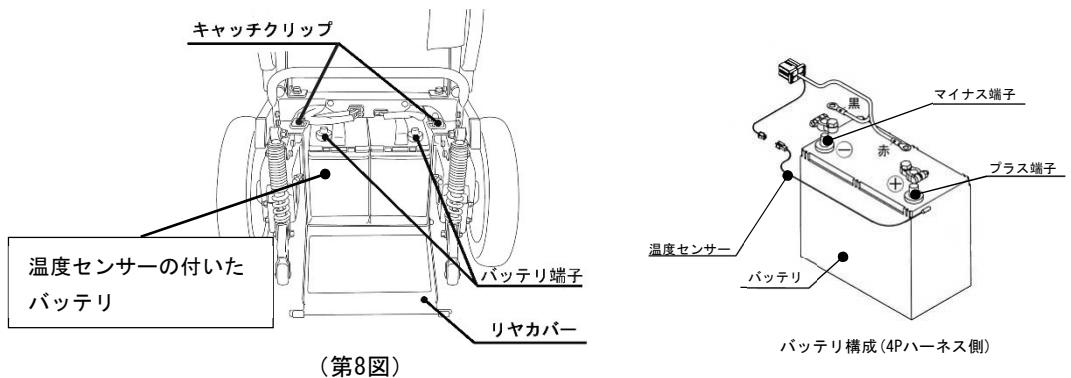
ご 留 意

各ボルトの固定は、下表の締め付けトルクに従って締め付けてください。

ねじ径 (mm)	六角穴付ボルト (kgf・cm)	六角ボルト (kgf・cm)	十字穴小ねじ (kgf・cm)
5	55	55	55
6	100	*	*
8	230	*	*
10	*	280	*

6. バッテリーのセットの仕方

- ①車いす後部の黒いレザーカバーとキャッチクリップ2カ所を外してリヤカバーを開きます。（第8図）



- ②温度センサーの付いたバッテリーを左側にして端子が外側になるようにバッテリーを押し込みます。
③バッテリーコネクタの4ピンと2ピンを差し込みます。

7. 分解

分解は前記を参考にしておこなってください。コネクタを抜くときは、ハーネスを持って引っ張らずにコネクタ本体を持って抜いてください。
また、全体の電気配線については、P. 35の「電気配線図」を参照してください。

5 点検・整備・保証

1. 日常点検

走行する前には次の点検を必ずおこなってください。異常がみられる場合にはお買い上げの販売店で点検を受けてから使用してください。

名称	点検項目
操作ボックス	操作レバーを離したとき、中央の位置に戻ってくるか？
	操作レバーの曲がり、ガタはないか？
	スイッチ類は正常に作動するか？
コントローラ	コネクタの緩み、外れはないか？
充電部	電源コードの出し入れはスムーズか？
タイヤ	空気圧は正常か？ 前輪：230～250kpa (2.3～2.5kgf/cm ²) 後輪：200～220kpa (2.0～2.2kgf/cm ²) P.30「手入れの仕方 1. タイヤの空気圧について」を参照してください。
	溝深さは？ 前輪：0.5mm 後輪：0.8mm P.30「手入れの仕方 1. タイヤの空気圧について」を参照してください。
	亀裂、釘のささり等、損傷はないか？
バッテリー	バッテリー端子の緩み、外れはないか？
	充電はされているか？ (バッテリーメータが全て点灯しているか)
駆動モータ	平地走行中1m以内に止まることができるか？
	「電動」、「手動」の切り替えが確実におこなえるか？
その他	各部コネクタの緩み、外れはないか？
	各部ボルト、ナットの緩みはないか？

2. 定期点検

安全にご使用いただくため、6ヶ月毎にご自身、またはお買い上げの販売店（有料）で点検を受けてください。（下表は点検記録としてご使用ください。）

※記入記号

V：異常なし A：調整 Δ：修理 X：交換 T：締め付け C：清掃 L：給油

点検項目		6ヶ月	1年	1年半	2年	2年半	3年
操作ボックス	操作レバーの作動・戻り具合						
	操作レバーの曲がり、ガタ						
	スイッチ類の作動具合						
	コネクタ類の緩み・損傷						
	ハーネス類の損傷						
	ケースの損傷						

点検・整備・保証

※記入記号

V : 異常なし A : 調整 Δ : 修理 X : 交換 T : 締め付け C : 清掃 L : 給油

点検項目		6ヶ月	1年	1年半	2年	2年半	3年
コントローラ 充電部	コネクタ類の緩み・損傷						
	ハーネス類の損傷						
	ケースの損傷						
	電源コードの出し入れ						
前輪	タイヤの空気圧						
	タイヤの亀裂・損傷						
	タイヤの溝深さ・異常摩耗						
後輪	タイヤの空気圧						
	タイヤの亀裂・損傷						
	タイヤの溝深さ・異常摩耗						
ホイール	ボルト・ナット類の緩み						
	ホイールの損傷（前輪）						
	ホイールの損傷（後輪）						
バッテリー	端子の緩み・外れ						
	コネクタ類の緩み・損傷						
	ハーネス類の損傷						
駆動モータ	回転異常・異音						
	電磁ブレーキの効き具合						
	コネクタ類の緩み・損傷						
	ハーネス類の損傷						
	クラッチレバーの作動具合						
アクチュエータ	異音						
シート	シートの汚れ・損傷						
	シート取り付けネジの緩み						
キャストホーク	キャストホークの回転具合・異音						
	キャストホーク軸受部のガタ						

実施年月日							
実施者氏名							

3. 保証について

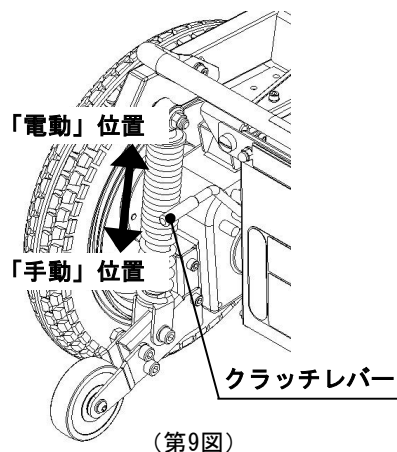
お買い上げいただきました電動車いすを構成している純正部品の消耗品以外の部品不具合に対する修理対応につきましては、保証書の内容に則って修理対応をおこないます。詳しくは保証書をご覧ください。


6 運転及び操作の仕方

1. 運転時の操作手順について

運転時の操作は次の要領でおこなってください。

- ① 電動車いすに乗る前に操作ボックスの電源スイッチが「切」になっていることを確認してください。
- ② 左右のクラッチレバーが「電動」の位置になっていることを確認してください。(第9図)
- ③ 座席に安定した姿勢になるように座りシートベルトを装着してください。
- ④ 操作ボックスの電源スイッチを「走」にしてください。
- ⑤ バッテリーの残量メータが全て点灯していることを確認してください。
- ⑥ 切り替えスイッチで速度を選択してください。
表示器に設定速度が表示されます。
760型：高速4.5 中速3.5 低速2.5
770型：高速6.0 中速4.5 低速2.5
- ⑦ 操作レバーをゆっくり倒してください。
 - ・前に倒せば前進、後ろに倒せば後進します。
 - ・左右に倒せば、その方向に旋回します。(第10図)
- ⑧ 電動車いすを停止させるには操作レバーを中央の位置に戻してください。ブレーキが掛かり停止します。
- ⑨ 電動車いすから降りる場合は電源スイッチを「切」にしてください。
- ⑩ 電動車いすを押してもらうときは、左右のクラッチレバーを「手動」の位置にしてください。ブレーキは効かないので坂道等の傾斜路には行かないでください。



警告	
	衝突・転倒の恐れがあります。 坂道ではクラッチレバーを「手動」位置で使用しないでください。 制止できなくて人身事故の危険があります。

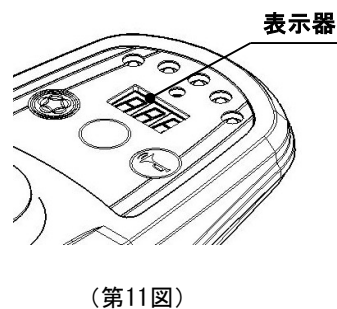
※電動車いすのバックサポートが後方に20度以上倒れている場合は、電源スイッチを「走行」にしても走行できません。表示器に「**PP**」が表示されます。

(第11図)

その状態で操作レバーを前方に倒し、「**PP**」の表示が変わるまでバックサポートを起こしてください。



※この表示は、バックサポート角度が20度以上、後方に倒れていることを表しています。



運転及び操作の仕方

2. 電動リクライニングの操作について

電動リクライニングの操作は次の要領でおこなってください。

①電動リクライニングを操作するときは操作ボックスの電源スイッチを「座席」にしてください。

表示器に「座席マーク」が表示されます。(第12図)

②バックサポートを倒す場合は操作ボックスのレバーを手前に倒してください。

③バックサポートを起こす場合は操作ボックスのレバーを前方に倒してください。(第13図)

④倒す場合や起こす場合はいずれもレバーから手を離せばその位置で停止します。

※バックサポート角度は座シートとの角度90～170度の範囲で動かすことができます。

※バックサポートを可動するときは車いすの前方や後方に物が無いことを確認して操作してください。

※電動リクライニングの操作は連続でおこなわないでください。(目安として10分間に2～3回程度)



(第12図)



(第13図)

⚠ 注意

走行中に電源スイッチを「切」にすると急停止しますのでしないでください。

⚠ 注意

無線・携帯電話等を使用するとき、あるいは理学療法の治療を受けるときは電動車いすの電源スイッチを「切」にしてください。

ご留意

破損する恐れがあります。電動車いすへの移乗時にはフットサポートの上に乗らないでください。

運転及び操作の仕方

⚠ 注意

電動リクライニングを操作するときは身体の一部や衣服等を車体に挟まないように気を付けてください。

⚠ 注意

電動リクライニングを操作するときは左右のアームサポートを外したままおこなうと転落する恐れがありますのでやめてください。また、シートベルトは必ず装着してください。

⚠ 注意

電動リクライニングを操作するときは車体及び操作レバー周辺に障害物がないことを確認してからおこなってください。

⚠ 注意

バックサポートを倒したまま走行すると転倒する恐れがありますのでしないでください。

⚠ 注意

操作力30g仕様の操作ボックスは外気温氷点下-5℃以下でのご使用はやめてください。操作レバーが戻らない場合があります。

- ※電動車いすは道路交通法上（第2条-3項-1号）歩行者として扱われます。歩行者としての交通ルールを守って安全運転を心掛けてください。
- ※歩道を走行し横断歩道を渡ってください。歩道のないところは右側通行してください。
- ※斜め横断はしないでください。
- ※踏切や横断歩道では一旦停止して安全を確認してください。
- ※電動車いすに移乗する場合はクラッチレバーが「電動」の位置になっていることを確認して電源スイッチを必ず「切」にしてください。クラッチレバーが「手動」の位置ではブレーキは効きません。
- ※電動車いすに移乗する際は操作ボックスに触れないでください。また、操作ボックスには体をあずけるなど大きな荷重を加えたり強い衝撃を与えたりしないようにしてください。
- ※スイッチや操作レバーの操作は丁寧におこなってください。また、衣服を引っ掛けたり、強い衝撃を与えたりしないようにしてください。
- ※走行中は子どもやペットが電動車いすに近づけないように注意してください。
- ※制動距離は条件によって変わります。停止操作は余裕をもっておこなってください。
- ※バックサポートの角度によっては急な坂道での制動性能が変わりますので充分気を付けて走行してください。
- ※屋内では他の人に迷惑を掛けないよう必ず低速で走行してください。また、人通りの多い歩道も必ず低速で走行してください。

運転及び操作の仕方

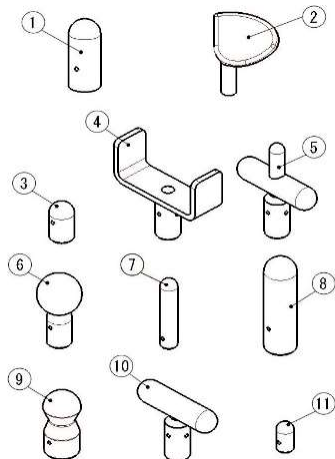
- ※後進時は後方の人や障害物を充分確認し走行してください。
- ※電動車いすが何かにつかったまま操作レバーを倒し続けるのは故障の原因になりますのでやめてください。
- ※車体から身体の一部をはみ出さないよう注意してください。
- ※駐停車は坂道避け必ず平地でおこなってください。
- ※保管や駐車するときはクラッチレバーを「電動」の位置にして電源スイッチを必ず「切」にして他人や子ども等が触れないように注意してください。
- ※二人乗りや牽引はしないでください。
- ※使用者最大体重（積載物含む）が100kgを超える場合は使用しないでください。
- ※スイッチ操作をするときは必ず停止しておこなってください。
- ※押し手ハンドル部分に袋等を掛けないでください。
- ※フットサポートを引き込んだ改造はしないでください。前輪との干渉の恐れがあります。

3. 操作レバーの適応について（オプション）

操作レバーと内部のバネ圧はオプション対応により選択することができます。レバーを取り換える際は下記対応表において操作レバーを選択してください。

※詳細は販売店にお問い合わせください。

○操作レバー対応表



バネ圧	操作力	使用可	使用不可
標準	700g	すべて可	
	~ 300g		
弱仕様	120g~	①標準・③小	④U・⑤十字・⑥球
	80g	⑦ペン・⑪極小	②チン・⑧太長 ⑨こげし・⑩T字
弱々仕様	30g	⑪極小	⑪極小以外すべて

⚠ 注意

操作力30g仕様の操作ボックスでは外気温氷点下-5℃以下でのご使用はやめてください。操作レバーが戻らない場合があります。

4. バッテリー残量ランプの表示について


バッテリーから取り出せる電気量には限度があります。バッテリーの残量ランプで電気の残量を確認しながら使用してください。

- バッテリーが十分に充電されていると残量ランプが全て点灯しています。使用しているうちにバッテリーの消費量によって残量ランプが右側より徐々に消えていきます。
- 残量ランプが1灯になったときは充電が必要です。

運転及び操作の仕方

- さらに使用を続けると残量ランプが1灯目で警告ブザーが鳴り速度が1/2に減速、やがて1灯点滅となり再度警告ブザーが鳴り停止します。（操作ボックスの表示器には「End」が表示されま
す。）このような使用をしますとバッテリーの寿命を著しく縮め故障の原因となります。詳細につ
きましては下記「バッテリー容量とバッテ残量ランプ及び走行状態の関係」をご確認ください。
- TOOLボタンを長押しすると表示器部分にバッテリー残量のパーセント表示になります。（例：85P）

バッテリー容量とバッテリー残量ランプ及び走行状態の関係

容量 (%)	バッテリー残量ランプ ●点灯 ○消灯 ◎点滅	走行状態	表示器	表示例
80~100	● ● ● ● ●	標準速度	設定速度を表示	
60~80	● ● ● ● ○			
40~60	● ● ● ○ ○			
20~40	● ● ○ ○ ○			
0~20	● ○ ○ ○ ○	10%未満で 速度1/2	設定速度を表示	
0	◎ ○ ○ ○ ○	停止	「End」表示	

5. 電源スイッチ切り忘れ防止機能について

電源を入れて操作レバーを倒さない状態が続くと10分間隔で警告ブザーが「ピピピ」と3秒間な
ります。

6. 走行距離について

※走行距離はEMC-770型の場合35Km程度です。（算出条件、他機種についてはP. 34の「諸元・性
能表」を参照してください。）

※走行距離は走行状況によって変わります。坂道や悪路等の電気を多く消費する場所を走行し
ますと短くなります。

※バッテリーは消耗品です。使用しているうちに働きは徐々に低下し走行距離も短くなります。

※冬場など気温の低い場所でご使用された場合の走行距離は短くなります。

※同じような使い方をしていてもバッテリー残量計の減り具合が早くなってきたり、走行できる
距離が次第に短くなってきたりする時はバッテリー交換の時期と思われる。早めに当社指定
のバッテリーに交換してください。尚、そのまま使用されますと急激に走行距離が短くなる場
合があります。

7. 緊急時の対処の方法について

何らかの原因で電動車いすが電動走行できなくなった場合は次のような対処をおこなってください。

●介助者が同行している場合

介助者の方は以下の作業をおこなってください。

- ・操作ボックスの電源スイッチを「切」にしてください。
- ・クラッチレバーを左右「手動」にしてください。

※クラッチレバーを左右「手動」にする場合は路面の傾斜の影響で車いすが思わぬ方向に動きますので車いすが動かないように必ず押し手ハンドル等を持ちながらクラッチ操作をおこなってください。

- ・手押しハンドルを押して車いすを安全な場所に移動させてクラッチレバーを左右「電動」にして停止してください。

●介助者が同行していない場合

- ・操作ボックスの電源を「切」にしてください。
- ・近くにいる人に声をかけて次の動作をおこなってもらってください。
- ・クラッチレバーを左右「手動」にしてください。

※クラッチレバーを左右「手動」にする場合は路面の傾斜の影響で車いすが思わぬ方向に動きますので車いすが動かないように必ず押し手ハンドル等を持ちながらクラッチ操作をおこなってください。

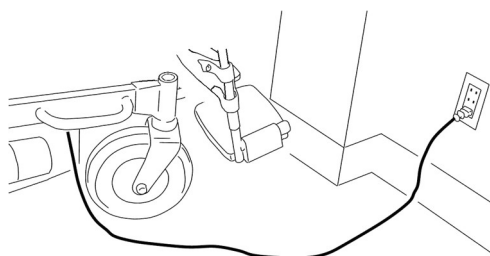
- ・手押しハンドルを押して車いすを安全な場所に移動させてクラッチレバーを左右「電動」にして停止してください。

※車いすの故障の場合は直ちにお買い上げの販売店で点検や修理を受けてください。

7 充電の仕方

充電は次の要領でおこなってください。

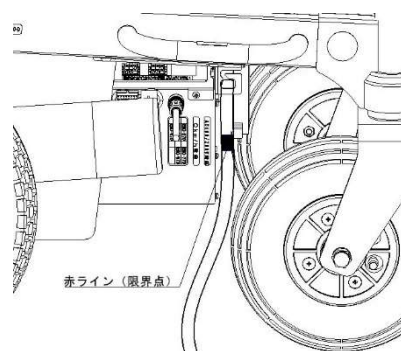
- ① 電動車いすの操作ボックスの電源スイッチを「切」にしてください。
- ② 充電用電源コードのプラグを引き出し家庭用100Vコンセントに差し込んでください。(第14図)
充電用電源コード上に赤ラインの印が出ましたら、それ以上は無理に引っ張らないでください。(第15図)
- ③ 充電中は操作ボックスの充電ランプが点灯して「充電中」であることをお知らせします。(第16図)



(第14図)

■表示器の表示と内容

表示器	内 容
	バッテリーのチェックをおこなっています。(約30秒)
	5A電流による1段目の充電をおこなっています。(最大7時間)
	2A電流による2段目の充電をおこなっています。(最大5時間)
	充電が完了しました。



第15図

電源コード全長
1m 40cm

バッテリーの充電が完了すると操作ボックスの充電ランプが緑色に点灯し、表示器に「Full」と表示されます。

- ④ 充電用電源コードのプラグを家庭用100Vコンセントから抜いてください。充電用電源コードは軽く引っ張りますと、自動的に電動車いすに収納されます。収納するときは充電用電源コードから手を放さず、ゆっくり収納してください。奥まできちんと充電用電源コードが収納されていることを確認してください。
- ⑤ 充電の途中でコンセントを抜いたりして、バッテリーが満充電でない状態での使用を繰り返しますと、バッテリーの性能劣化が早くなり、バッテリー寿命が通常よりも短くなります。

必ず満充電までおこなってください。

※充電が終了しましたら、必ず電源コードのプラグのコンセントから抜いてください。

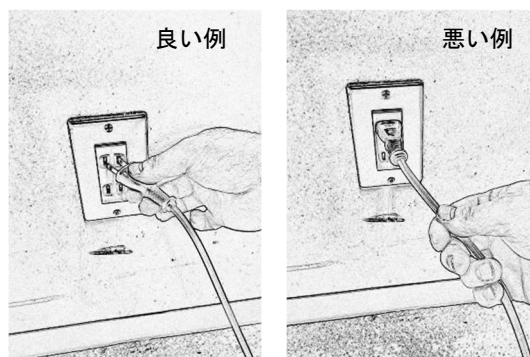
長期間プラグを差し込んだままにしないでください。



(第16図)

充電の仕方

※充電用電源コードのプラグの取り扱いについては、プラグの根元付近以外はつままないでください（第17図）。充電用電源コードや蛇腹部分を引っ張ったり、押し込んだりすると破損や断線をするため、取り扱いには十分お気を付けてください。



(第17図)

警告	
	感電の恐れがあります 濡れたプラグや、濡れた手で充電しないでください。 つぎのような場所では充電しないでください。
	●雨露を受ける場所 ●湿気の多い場所

警告	
	引火爆発の恐れがあります 充電中、バッテリーに火気を近づけないでください。 バッテリーは充電中、可燃性のガスを発生します。

注意

バッテリーは充電中に可燃性のガスを発生しますので、次のような場所では充電しないでください。

- 直射日光のあたる場所
- 風通しの悪い場所
- 近くに調理器具や暖房器具などの火気器具を使用する場所

注意

車体カバー等を掛けたまま充電しないでください。

ご留意

充電器の分解や改造は故障の原因になりますのでやめてください。

- ※購入後はじめてご使用になる場合は必ず充電してください。
- ※必ずメーカー専用の充電器とバッテリーをご使用ください。
- ※充電するときは必ず電動車いすの電源スイッチを「切」にしてください。
- ※充電用電源コードは1m40cmまでしか引き出せないの、充電用電源コードに赤ラインが見えたらそれ以上は無理に引っ張らないでください。
- ※雷時は直ちに充電を中止して充電用電源コードのプラグを家庭用の100Vコンセントから抜いてください。
- ※長期間ご使用にならない場合でも過放電を防ぐために2~3週間に一度は充電してください。
- ※冬場など気温が低い場所ではバッテリーの活性が弱くなり、充電が不足気味になりますので気を付けてください。

充電の仕方

※各箇所のコネクタが正しく差し込まれていないと充電できません。

※充電時間はバッテリーの充電状態にもよりますが最大12時間です。

※充電中に電動車いすの電源スイッチを「入」にしても走行することはできません。

※破損した電源用充電コードで充電しようとする、コンセントがショートしたり感電して負傷したりする恐れがありますので、直ちに使用を中止して部品の交換をおこなってください。

※充電用電源コードはまっすぐ引き出してください。充電用電源コードを上引っ張りながら引き出すと、本体の引き出し部分とのこすれによる破損や断線、感電、ショート、発火の原因になります。

※充電用電源コードに傷みがあるとき、コンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。

※充電用電源コードを巻き取るときは、充電用電源コードのプラグを持ってください。充電用電源コードの破損や断線、感電、ショート、火災の原因になります。

※充電用電源コードのプラグは根元まで確実に差し込んでください。

※充電用電源コードの損傷による火災、感電の原因となりますので、充電用電源コードを傷つけない、無理に引っ張らない、曲げない、ねじらない、束ねない、加工しない、高温部に近づけない、はさみ込まない、タイヤの回転部に巻き込まないように注意してください。

8 バッテリーの取り扱い

1. バッテリーについて

バッテリーに直接触れる作業をおこなう場合は、バッテリーに表示されているコーションラベルをよくお読みになってその指示に従ってください。バッテリーのラベルの内容は次の通りです。

⚠ 危険

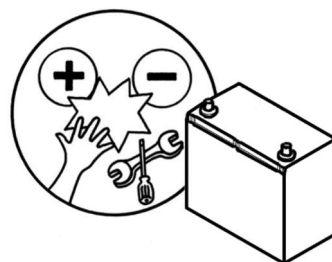
取り扱いを誤ると引火爆発の恐れがあります。

- ・水素ガスが出ることもあるため、密閉容器内で使用しないでください。充電は風通しの良いところでおこない、ショートや断線でスパークさせたり火気を近づけたりしないでください。
- ・排気栓は絶対に取り外さないでください。（補水禁止）
- ・充電は専用充電器を使用するか、または指定の充電条件でおこなってください。
- ・バッテリー液（希硫酸）で失明、やけどをすることがあります。目、皮膚、衣服、物に付いたときには直ちに多量の水で洗い、目に入ったときは直ちに多量の清水で洗眼した後、すぐに医師の治療を受けてください。

バッテリーについては、次のことを守ってください。

⚠ 危険

バッテリーのプラス端子とマイナス端子を接触させると、火傷したりバッテリーを損傷したりする恐れがあります。バッテリーの交換、メンテナンス時に工具または金属物を接触させないように作業してください。作業終了後、ターミナルカバーが確実にかぶっていることを確認してください。



⚠ 注意

電動車いすのバッテリーを人工呼吸装置等の生命維持装置の電源等には使用しないでください。

バッテリーの取り扱い

2. バッテリーの交換について

バッテリー交換はP. 15の「バッテリーのセットの仕方」を参照してください。

⚠ 注意

バッテリーを引き出すときは必ず白い取手を持っておこなってください。

ご留意

バッテリーを交換する場合は必ず販売店で交換してください。

- ※バッテリーは端子を外側にセットしてください。
- ※バッテリーの寿命は使用場所、使用時間によって大幅に異なります。
- ※ライトやブザー等の電源としてバッテリーを使用する際は直接バッテリーから配線しないでください。
(販売店に相談してください。)
- ※バッテリーを交換する場合は当社指定のバッテリーをご使用ください。
- ※使用済みのバッテリーはそのまま廃棄せず販売店に相談してください。
- ※充電時にバッテリーからガス抜け音(笛のような「ピュー」などの音)がすることがありますが性能上問題ございません。

⚠ 注意

バッテリーは当社指定のバッテリーを使用してください。
温度センサーが付いていないバッテリーは使用することができません。

⚠ 注意

バッテリーには寿命がございます。バッテリーメーカー（株式会社GSユアサ）によると、現在の充電できる量が新品の時の80%に至った時を寿命と規定されております。その充電サイクルは、今仙の電動車いすへの使用において約400回となっております。（寿命は、使用状況や温度などによって変化します。）

バッテリーは、充電回数約500回または製造月から約2年での交換をお勧めします。

寿命を超えて使用した場合や1年以上使用しなかった場合は、バッテリー内部部品がいちじるしく劣化して、急な放電停止、変形、破損、破裂する場合があります。異常を感じられましたら使用を中止し直ちに交換してください。

当社指定バッテリー

SEB35（株式会社GSユアサ製）に当社電動車いす専用の温度センサーが取り付けられているバッテリー

バッテリーの取り扱い

3. バッテリーを長持ちさせる上手な使い方

バッテリーは日常の保守管理によって寿命は大きく変わります。
下記の点に留意してバッテリーを長持ちさせてください。

- バッテリーの残量メータが1灯点灯の状態になりましたら**すぐに充電**してください。
- 充電するときは必ず充電完了（表示器：Full）となるまで充電してください。
また、充電完了となったらそのまま放置せず早めに充電用電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 使用せずに長期保管する場合はバッテリーを満充電にしてから保管してください。
バッテリーは使用していないときでも残量が減っていきます。（自然放電）
長期保管する場合は2～3週間に一度、過放電を防ぐために充電をしてください。
- 冬場などで10℃以下の低温環境で充電しますとバッテリー内の化学反応が抑制され充電不足となりますので、暖かい（15～25℃）部屋等での充電をおすすめします。
ただし、屋内で充電される場合は火気のない場所で充電してください。
尚、外気温度が低い屋外で充電する場合は乗り終えたらすぐに充電してください。

※気温の低い冬場はバッテリーの働きがにぶるため、新品のバッテリーでも20℃の時の容量に対して走行可能距離が10℃で90%、0℃で80%程度と短くなります。

9 手入れの仕方

電動車いすを安心してご使用していただくために次の保守をしてください。

1. タイヤの空気圧について

ご 留 意

電動車いすのタイヤは空気入りのタイヤです。タイヤの空気圧が少ないと路面との摩擦が増して電気の消費量が増えるので次のようなことが起こります。

- 走行距離が短くなります。
- 速度が遅くなります。
- 操作性が悪くなります。

空気圧が前輪230～250kp (2.3～2.5kgf/cm²) 後輪200～220kpa (2.0～2.2kgf/cm²) になるように空気を入れてください。

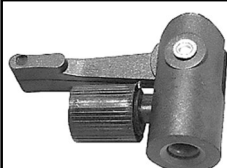
※タイヤの空気圧は少なくとも月に1度くらいの間隔で定期的に確認してください。

※空気入れは自転車専用のポンプの口金を自動車、オートバイ用に変えたもので入れてください。

※タイヤの空気圧はホイールが破損する恐れがありますので規定以上に入れないでください。

※タイヤの溝深さが前輪0.5mm、後輪0.8mmより浅くなっていたら交換してください。

※タイヤを交換する場合は当社純正のタイヤをご使用ください。



自動車、オートバイ
などで使用する空気
入れの口金(米式)

使用できる口金



自転車などに使用する
空気入れの口金(英式・
仏式)

使用できない口金

2. 保管上の注意

電動車いすは、次のような場所に保管しますと故障の原因となります。

このような場所は避けて保管してください。

- 水等の掛かる場所
- 湿気の多い場所
- 火気の近く等高温になる場所
- 直射日光のあたる場所
- 砂、ほこりの多い場所

※クラッチレバーは必ず「電動」の位置で保管してください。

手入れの仕方

3. その他の手入れ

ご 留 意

電動車いすは電気部品をたくさん使用していますので、水洗いは絶対にやめてください。

※水等に濡らすと錆や故障の原因となります。

濡れた場合は乾いた柔らかい布等でふいてください。

※ガソリン、シンナー、ワックス等でふかないでください。

●柔らかい布等で汚れを落としてください。

●汚れのひどい所は中性洗剤を柔らかい布等にしみ込ませてふき取ってください。

※部品交換時は必ず純正部品を使用してください。

10 故障時チェックリスト

故障であると思われるら、症状と操作ボックスの表示器によって下記の確認をおこない、保証書の車体番号と合わせて販売店にご連絡ください。

症 状	確認事項	
電源が入らない	ハーネスに付いているヒューズ（30A×2）が切れていないかお確かめください。	
	操作ボックスとコントローラをつなぐコネクタが外れていないかお確かめください。	
	バッテリーの接続方法が正しくおこなわれているかお確かめください。	
	充電用電源コードのプラグが差し込まれていないかお確かめください。	
	バッテリー容量不足（電圧低下）が考えられます。	
電動車いすが動かない	操作ボックスの電源スイッチが「入」になっているかお確かめください。	
	クラッチレバーが「電動」の位置になっているかお確かめください。	
	操作ボックスの表示器に速度表示または充電終了時の「Full」以外の表示が出ていませんか。下記表示の場合は販売店にご連絡ください。 <表示と点検>	
	表示	点検
	E-0	常時表示される場合はコントローラの故障が考えられます。 ※部品交換などの際に1回だけ表示されることがあります。
	E-3 E-4 E-5	電動車いすが障害物等により動けなくなっていないかお確かめください。
	E-6	左モータまたはコントローラの故障が考えられます。
	E-7	右モータまたはコントローラの故障が考えられます。
	F-1	コントローラの故障が考えられます。
	F-3	コントローラの温度上昇保護機能が働いている可能性があります。上り坂など高負荷での使用は避けてしばらく走行しないでください。
	H-0	操作ボックスの操作レバーを動かしながら電源スイッチを「入」にしていませんか。操作レバーから手を離して電源スイッチを「入」にしてください。
	H-1	操作ボックスまたはコントローラの故障が考えられます。（通信エラー）
	H-2	操作レバーの故障が考えられます。
	H-3	操作ボックスの設定が完了していないと考えられます。
	H-4	操作ボックスを複数使う際の設定が完了していないと考えられます。

故障時のチェックリスト

走る力が弱い	コントローラの温度上昇保護機能が働いている可能性があります。上り坂など高負荷での使用は避けてしばらく走行しないでください。	
	バッテリー残量ランプが1個点灯になっていませんか。 (バッテリー保護のため走行速度を50%にしています。)	
	タイヤの空気圧をお確かめください。	
バッテリーメータが下がりがやすくなった	タイヤの空気圧をお確かめください。	
	冬場など気温が低いときに走行しますとバッテリー残量ランプが下がりがやすくなります。 (走行距離が短くなります。) バッテリーには寿命がございます。充電回数約500回または製造月から約2年での交換をお勧めします。(P.28参照)	
タイヤがパンクした	販売店にご連絡ください。	
充電しない	充電用電源コードのプラグが確実にコンセントに差し込まれているかお確かめください。	
	表示器に充電中の表示が出ない場合は、充電用電源コードが破損していると考えられます。そのまま充電しようとすると危険ですので部品の交換をおこなってください。	
	バッテリー容量不足(電圧低下)が考えられます。バッテリー交換をご検討ください。	
	エラーメッセージの表示と警告ブザーが「ピー、ピー」と鳴っていませんか。 (10分間隔で3秒間鳴ります。)下記表示の場合、販売店にご連絡ください。 <表示と点検>	
	表示	点検
	C-3	充電器の故障が考えられます。
	C-4	バッテリー温度センサーの断線が考えられます。
	C-5	バッテリー過熱のため時間をおいて冷ましてから充電を開始してください。
C-6	充電器過熱のため時間をおいて冷ましてから充電を開始してください。	
C-7	バッテリーを長期間使用していなかった、或いは寿命が切れたと考えられます。	
その他	不明な点がございましたら販売店までご連絡ください。	

11 諸元・性能表

種類		L S		M S			
仕様		機種		EMC - 760		EMC - 770	
寸法 (mm)	全長×全幅×全高	長1,030×幅600×高1,035 (ヘッドサポート装着時:1,400)					
	アームサポート高さ	シート上面より210~310 6段階調節(20mm ¹ ツフ)					
重量 (kg)	本体	69					
	バッテリー含む	97					
車輪径(mm) (前後輪空気入りタイヤkpa)		前輪: 2.50-4-4PR (径220mm) 空気圧: 230~250 後輪: 2.50-8-4PR (径330mm) 空気圧: 200~220					
フレーム構造及び寸法 (mm)		上下分割方式: シート、アームサポート シート幅 400 シート奥行 430 バックサポート高さ 540					
リクライニング		電動リクライニング式 (90~170度・無段階調整)					
駆動方式		前輪キャスト後輪直接駆動方式					
制動方式		モータ発電及び電磁ブレーキによる制動方式					
制御方式		ジョイスティックコントローラによる全方向電子制御方式					
駆動モータ		30分定格出力 DC24V 200W×2					
バッテリー		SEB35-T 12V35Ah(5時間率)×2					
充電器(充電時間)		電子タイマー付き自動充電方式(0~12時間)					
速度 (km/h)	低速 中速 高速	前進時	後進時	前進時	後進時		
		2.5	1.5	2.5	1.5		
		3.5	2.1	4.5	2.6		
連続走行距離 (km)		算出条件: 常温で乗車重量75kg、最高速度、平坦路直進時、 バッテリー新品満充電から100%放電まで					
		33		35			
実用登坂角度(度)		8					
段差乗越高さ: 前進時(mm)		50					
溝乗越幅(mm)		100					
最小回転半径(mm)		測定条件: フットサポートの最も外側の軌跡 930					
使用者最大体重(kg) ※積載物含む		100以下					

※改良のため予告なく諸元・性能を変更することがあります。



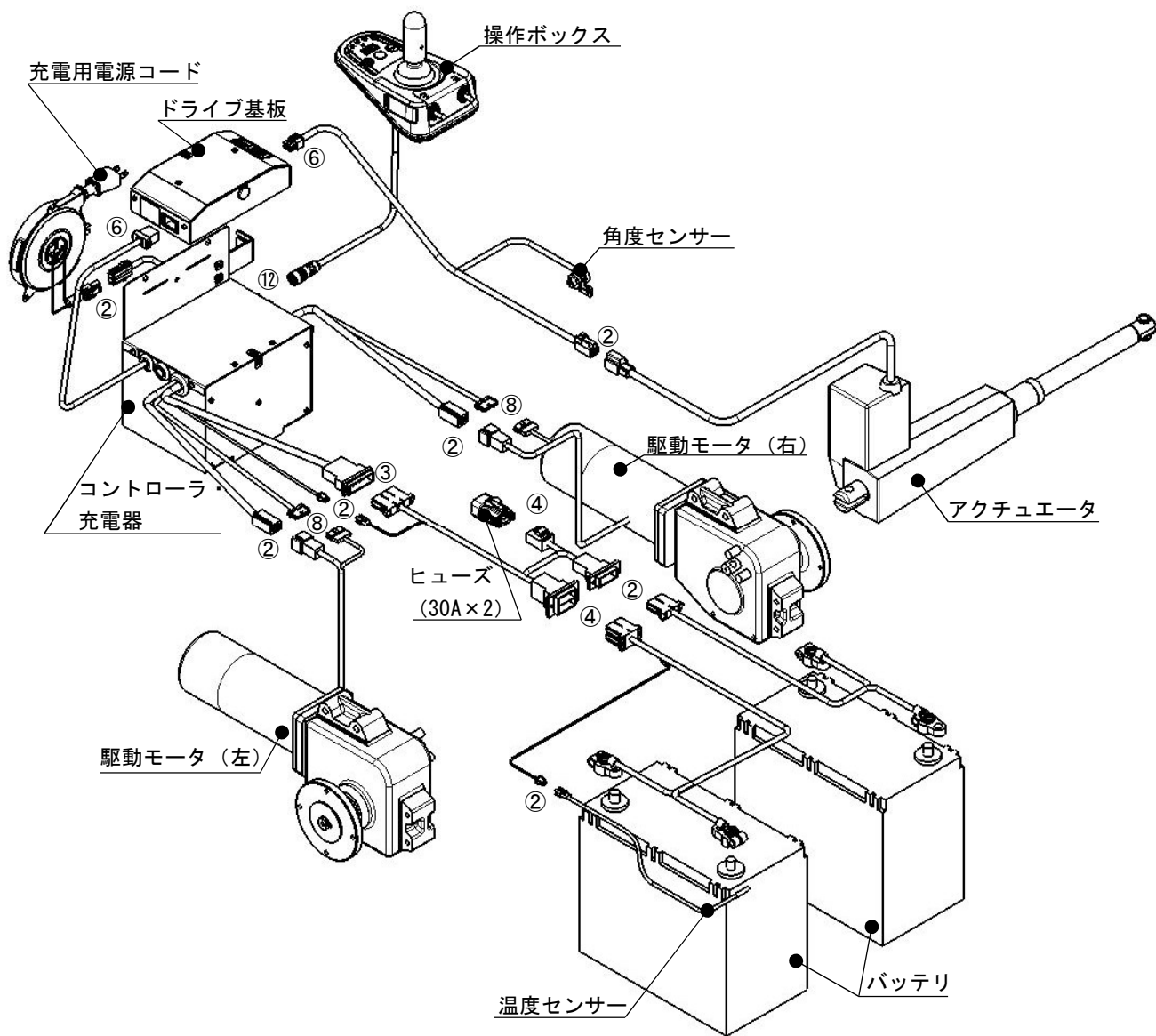
注意

標準車にオプションを取り付けたり改造を加えたりした場合は、電動車いすの諸元、性能が変わります。改造内容によっては転倒しやすくなりますので充分注意してください。

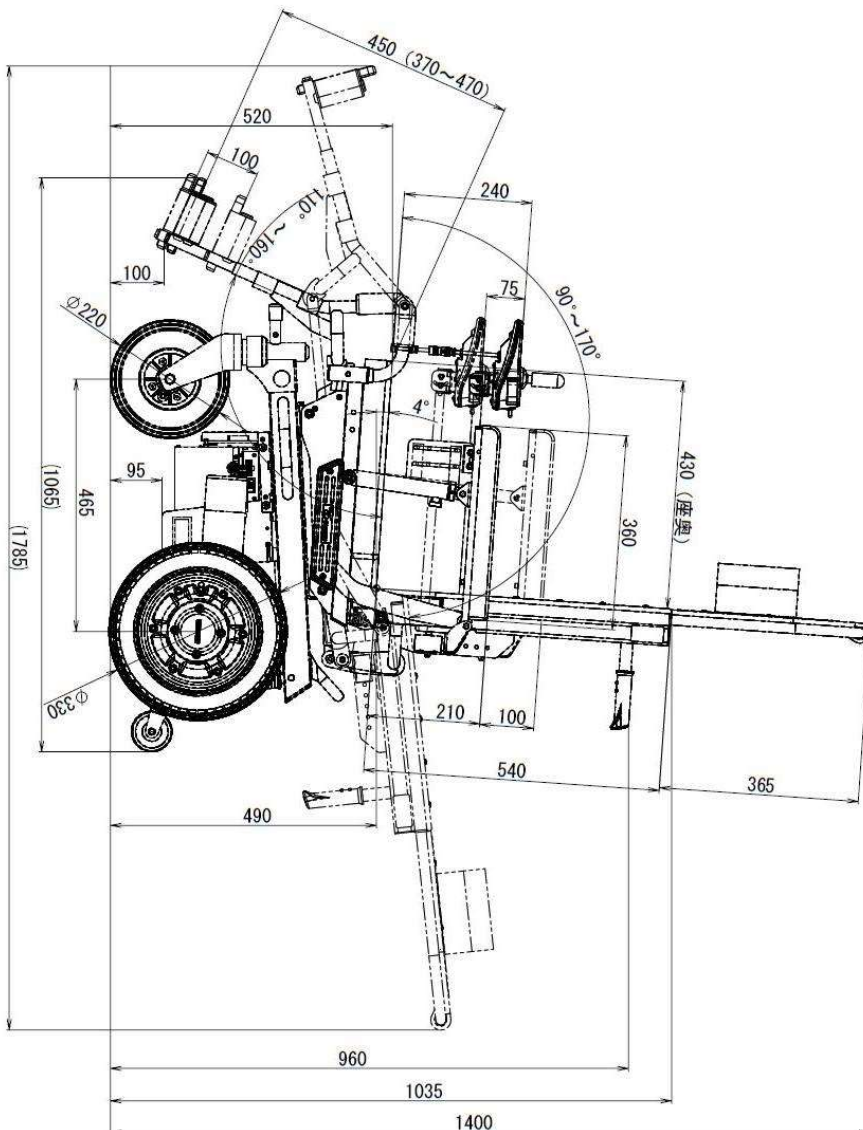
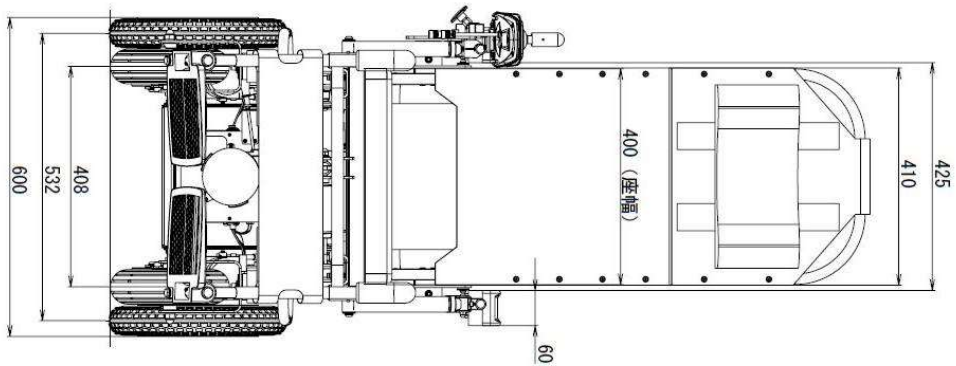
12 電気配線図

数字はコネクタの極数を示しております。

※つめ付きコネクタを抜くときは、コネクタのつめを押しながら抜いてください。



13 外觀圖



お問い合わせは



株式会社 **今仙技術研究所**

岐阜県各務原市テクノプラザ3丁目1番8号

〒509-0109

TEL (058) 379-2744 FAX (058) 379-2743

<http://www.imasengiken.co.jp>